

## 平和へのメッセージ

7月16日(水)、企画運営委員会主催の平和集会を行いました。それぞれの学年で学習したことを発表し合い、戦争や平和について考える集会で、今年で6回目になります。映画の感想や詩の群読、合唱などの発表を行いました。

### —平和への発信—

原爆や戦争により、多くの人の命がうばわれてしまいました。あれからもう63年…。わたしたちは、今年、国語で学習した「ヒロシマのうた」や平和学習会での「大林さんの体験談」から、奇跡的に生き残った人、残された人の気持ちを考えました。

一瞬にして、住むところを奪われた人たち。親を亡くして、一人ぼっちになってしまった子どもたち。目の前でたくさんの命が失われていくのを見届けた人たち。

どれだけの深い傷が心に刻み込まれたのでしょうか。その苦しみや悲しみははるかに想像をこえています。わたしたちは、そのような人たちの気持ちを直接聞くことのできる最後の世代として、この出来事を未来に伝えていきたいと思います。(6年児童代表)

1年生は8月6日に起きたことを2度とくりかえすことのないようにという願いを込めて「アオギリの歌」を歌いました。2年生は「かわいそうなぞう」の映画を見た感想を発表しました。3年生は「青い空は」を歌いどんなに大変でも一步一步平和な世界をつくるために進んでいきたいという平和への思いを発表しました。4年生、5年生は「ねがい」を、6年生は「夏の終わり」を歌い、平和への思いを発表しました。



最後に、企画運営委員が7月2日の平和学集会での語り部「大林さん」の講演会の感想を発表しました。

昔の学校では、戦争はおそろしいものだと教えられてなく、むしろ戦うことはカッコいいことだと教えられていたそうです。戦争は罪もない人々から命や夢や希望をうばい、人の心がこわれてしまうものなのに…。戦争がいいことだと教えるなんて信じられません。

原子爆弾が落とされた時は、太陽がもう一つ現れたかのように明るい空に輝いたそうです。町は、死体や死にそうな人であふれ、やがて空にきこ雲が浮かび黒い雨が降ってきたそうです。今では、考えられないことをたくさん聞き、もう、こんな悲惨なことをしていけないと思いました。

大林さんがぼくたちに伝えたかったことは、「このようなあやまちをくり返してはいけない」ということを次の世代に伝えてほしいということだと思います。これから生きていくぼくたちにできることは、人の心を傷つけないことと身近な友達や家族を大切にすること、そして、戦争や戦いの恐ろしさを多くの人に伝えることだと思います。